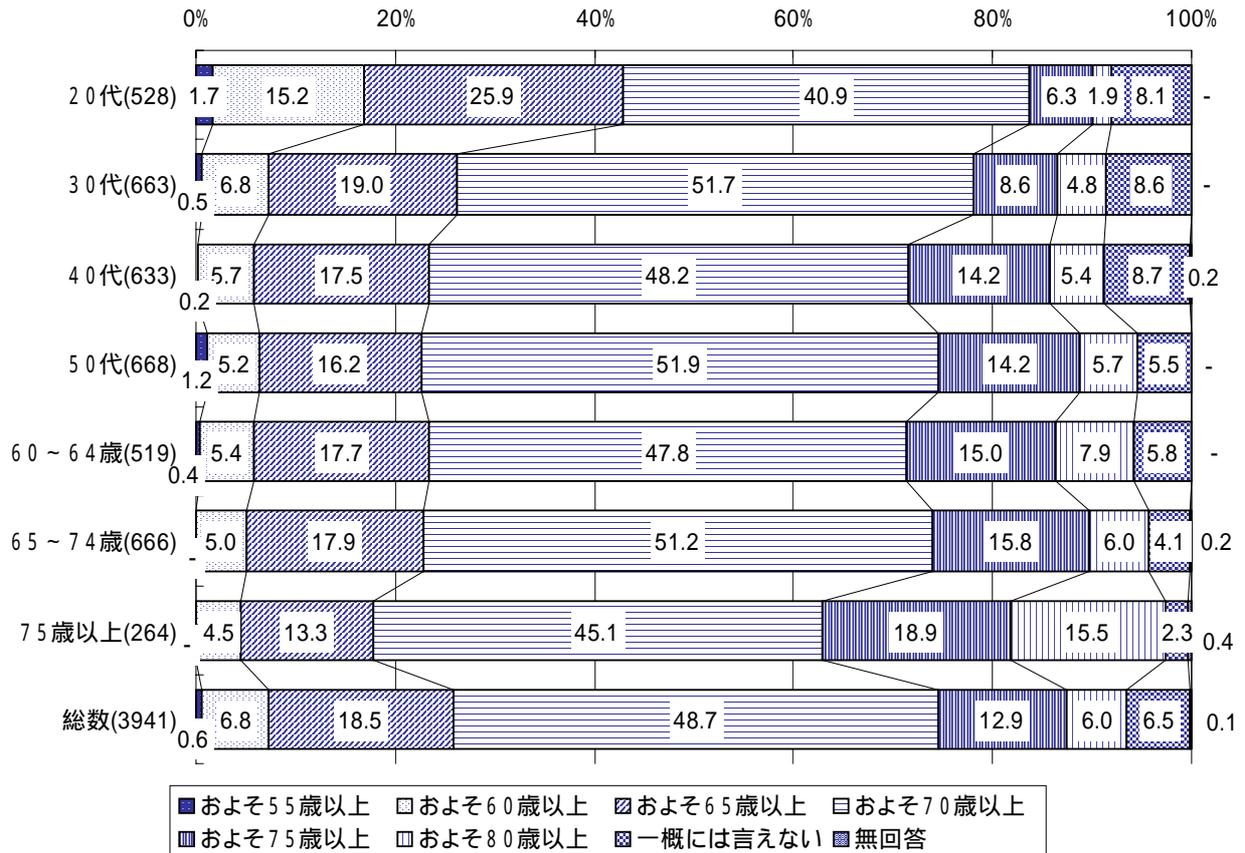


(1) 高齢者の定義（年齢）(Q1)

「何歳以上の方が『高齢者』『お年寄り』だと思うか」についてみると、「およそ70歳以上」が48.7%と半数近くを占め最も高く、以下「およそ65歳以上」18.5%、「およそ75歳以上」12.9%、「およそ60歳以上」6.8%、「およそ80歳以上」6.0%等の順となっている。なお、「およそ70歳以上」、「およそ75歳以上」、「およそ80歳以上」を合わせると67.6%と7割弱に達している。また、「一概には言えない」は6.5%となっている。

図1 高齢者の定義（年齢）(Q1)



性別にみると、「およそ70歳以上」を高齢者だと思う者の割合は、女性で高くなっている。

年齢別にみると、年齢が低いほど高齢者をイメージする年齢は低い傾向がみられ、20代では「およそ60歳以上」を高齢者とする割合が、15.2%となっている。

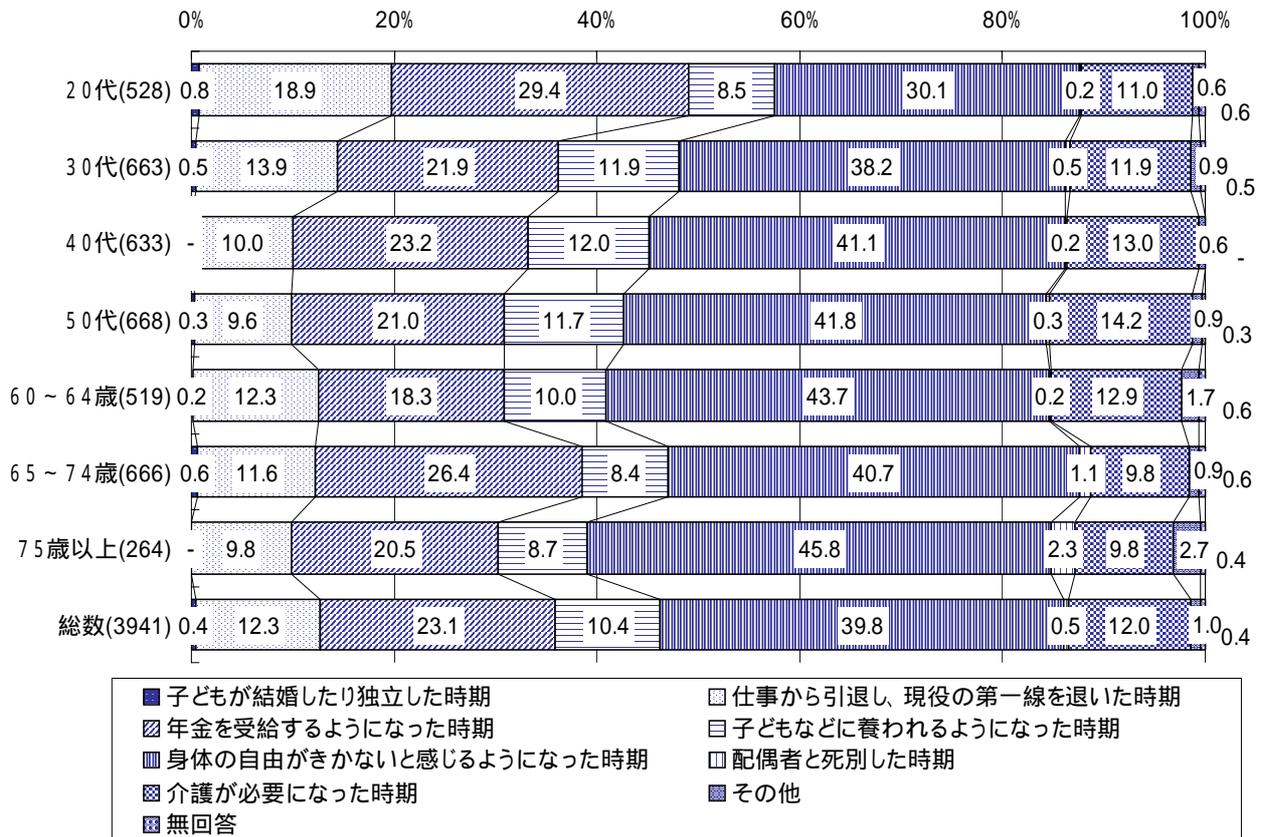
表1 高齢者の定義（年齢）(Q1)

	総数	およそ55歳以上	およそ60歳以上	およそ65歳以上	およそ70歳以上	およそ75歳以上	およそ80歳以上	一概には言えない	無回答
【総数】	3,941	0.6	6.8	18.5	48.7	12.9	6.0	6.5	0.1
【性別】									
男性	1,862	0.7	8.7	21.2	46.9	11.1	4.4	7.0	0.1
女性	2,079	0.5	5.1	16.1	50.3	14.5	7.4	6.0	0.1
【年齢】									
20代	528	1.7	15.2	25.9	40.9	6.3	1.9	8.1	-
30代	663	0.5	6.8	19.0	51.7	8.6	4.8	8.6	-
40代	633	0.2	5.7	17.5	48.2	14.2	5.4	8.7	0.2
50代	668	1.2	5.2	16.2	51.9	14.2	5.7	5.5	-
60～64歳	519	0.4	5.4	17.7	47.8	15.0	7.9	5.8	-
65～74歳	666	-	5.0	17.9	51.2	15.8	6.0	4.1	0.2
75歳以上	264	-	4.5	13.3	45.1	18.9	15.5	2.3	0.4

(2) 高齢者の定義（年齢以外）(Q 2)

「どのような時期からが『高齢者』『お年寄り』だと思うか」についてみると、「身体が自由がきかないと感じるようになった時期」が39.8%と4割弱を占め、以下「年金を受給するようになった時期」23.1%、「仕事から引退し、現役の第一線を退いた時期」12.3%、「介護が必要になった時期」12.0%、「子どもなどに養われるようになった時期」10.4%等の順となっている。

図2 高齢者の定義（年齢以外）(Q 2)



性別にみると、「仕事から引退し、現役の第一線を退いた時期」（男性 16.8%、女性 8.3%）は男性の、「身体が自由がきかないと感じるようになった時期」（男性 37.6%、女性 41.8%）、「介護が必要になった時期」（男性 8.7%、女性 14.9%）は女性の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「身体が自由がきかないと感じるようになった時期」は、75歳以上で 45.8%と割合が高くなっている。

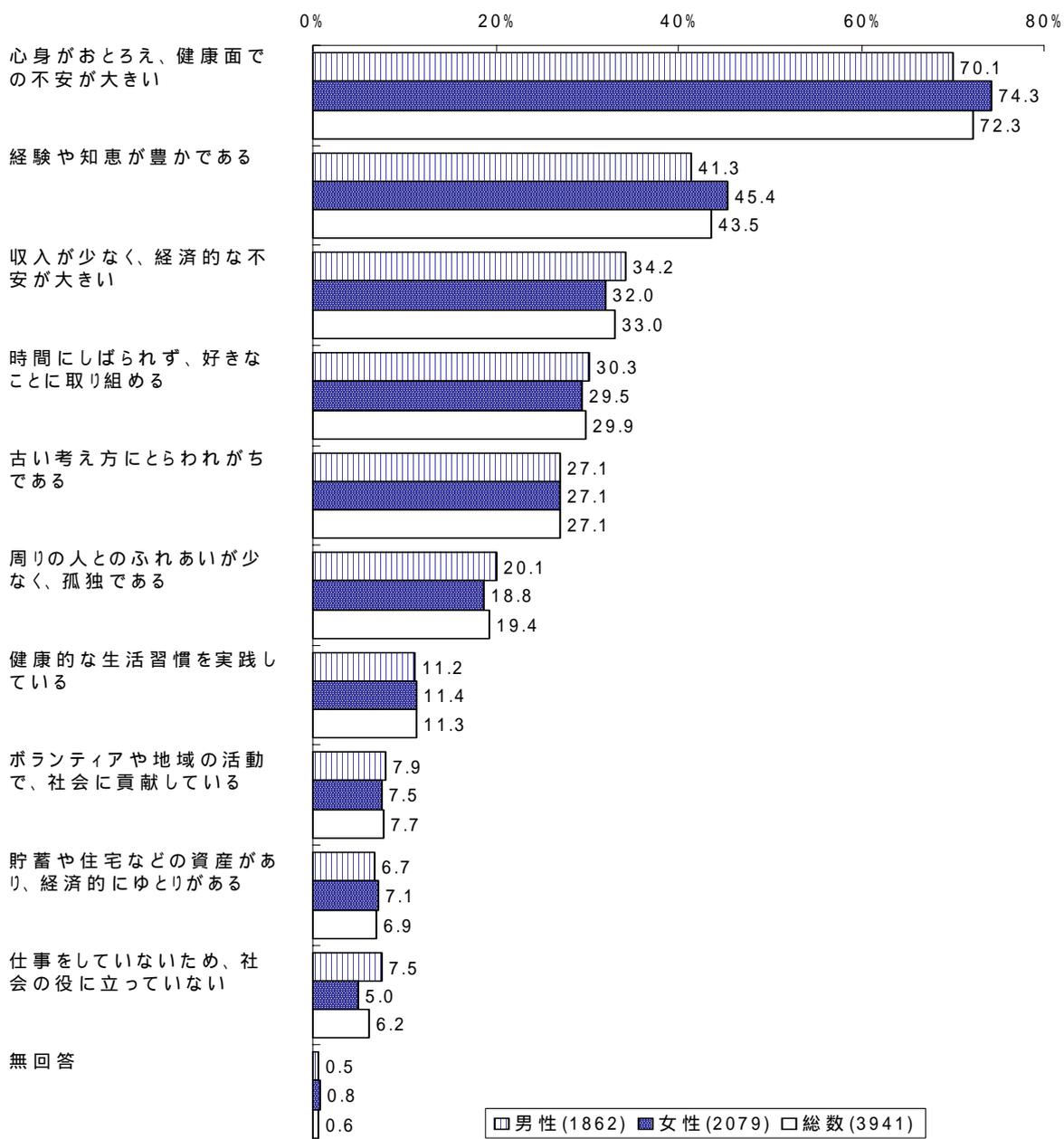
表2 高齢者の定義（年齢以外）(Q2)

	総数	子どもが結婚したり独立した時期	仕事から引退し、現役の第一線を退いた時期	年金を受給するようになった時期	子どもなどに養われるようになった時期	身体がきかないと感じるようになった時期	配偶者と死別した時期	介護が必要になった時期	その他	無回答
【総数】	3,941	0.4	12.3	23.1	10.4	39.8	0.5	12.0	1.0	0.4
【性別】										
男性	1,862	0.5	16.8	24.4	9.8	37.6	0.6	8.7	1.1	0.4
女性	2,079	0.2	8.3	22.0	10.9	41.8	0.4	14.9	1.0	0.4
【年齢】										
20代	528	0.8	18.9	29.4	8.5	30.1	0.2	11.0	0.6	0.6
30代	663	0.5	13.9	21.9	11.9	38.2	0.5	11.9	0.9	0.5
40代	633	-	10.0	23.2	12.0	41.1	0.2	13.0	0.6	-
50代	668	0.3	9.6	21.0	11.7	41.8	0.3	14.2	0.9	0.3
60～64歳	519	0.2	12.3	18.3	10.0	43.7	0.2	12.9	1.7	0.6
65～74歳	666	0.6	11.6	26.4	8.4	40.7	1.1	9.8	0.9	0.6
75歳以上	264	-	9.8	20.5	8.7	45.8	2.3	9.8	2.7	0.4

(3) 高齢者のイメージ (Q3)

「『高齢者』『お年寄り』に、どのようなイメージを持っているか」についてみると、「心身がおとろえ、健康面での不安が大きい」と思う人が72.3%と7割を超え最も高く、以下「経験や知恵が豊かである」43.5%、「収入が少なく、経済的な不安が大きい」33.0%、「時間にしばられず、好きなことに取り組める」29.9%、「古い考え方にとらわれがちである」27.1%、「周りの人とのふれあいが少なく、孤独である」19.4%、「健康的な生活習慣を実践している」11.3%等の順となっている。

図3 高齢者のイメージ (Q3) (3つまでの複数回答)



性別にみると、「心身がおとろえ、健康面での不安が大きい」(男性 70.1%、女性 74.3%)、「経験や知恵が豊かである」(男性 41.3%、女性 45.4%)は女性の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「経験や知恵が豊かである」は、20代(51.9%)、30代(53.4%)、40代(51.0%)で割合が高く、「健康的な生活習慣を実践している」、「仕事をしていないため、社会の役に立っていない」は65歳以上で割合が高くなっている。

健康状態(日常生活への影響)別にみると、「心身がおとろえ、健康面での不安が大きい」(77.5%)、「収入が少なく、経済的な不安が大きい」(41.0%)は、「(日常生活に)影響がある」で割合が高く、「経験や知恵が豊かである」(45.0%)は「(日常生活に)影響はない」で割合が高くなっている。

表3 高齢者のイメージ(Q3)(3つまでの複数回答)

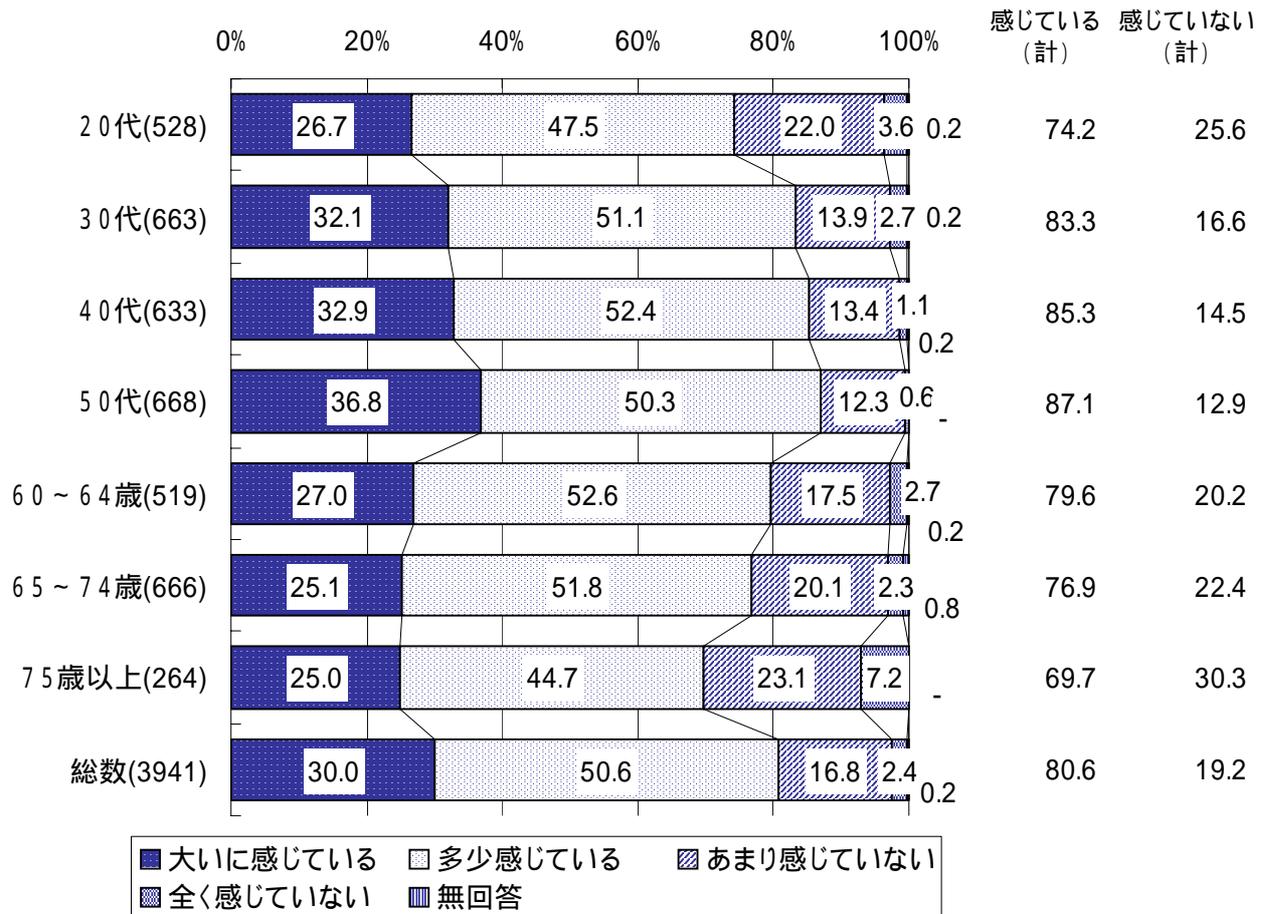
	総数	心身がおとろえ、健康面での不安が大きい	経験や知恵が豊かである	収入が少なく、経済的な不安が大きい	時間にしばられず、好きなことに取り組める	古い考え方にとらわれがちである	周りの人とのふれあいが少なく、孤独である	健康的な生活習慣を実践している	ボランティアや地域の活動で、社会に貢献している	貯蓄や住宅などの資産があり、経済的にゆとりがある	仕事をしていないため、社会の役に立っていない	無回答	計(M.T)
【総数】	3,941	72.3	43.5	33.0	29.9	27.1	19.4	11.3	7.7	6.9	6.2	0.6	257.9
【性別】													
男性	1,862	70.1	41.3	34.2	30.3	27.1	20.1	11.2	7.9	6.7	7.5	0.5	257.0
女性	2,079	74.3	45.4	32.0	29.5	27.1	18.8	11.4	7.5	7.1	5.0	0.8	258.8
【年齢】													
20代	528	74.1	51.9	28.4	24.1	34.1	17.2	8.5	4.9	9.3	3.0	0.4	255.9
30代	663	74.1	53.4	33.3	27.6	25.8	14.6	9.2	6.0	7.4	2.6	0.5	254.4
40代	633	76.3	51.0	28.9	30.3	29.2	17.7	9.8	7.4	9.8	2.5	0.5	263.5
50代	668	79.5	40.7	37.9	28.7	27.4	24.9	8.4	6.7	7.5	4.3	-	266.0
60～64歳	519	67.2	38.2	36.6	33.7	24.1	22.9	12.3	8.5	3.9	7.9	1.0	256.3
65～74歳	666	65.8	32.6	35.0	32.9	24.0	20.1	16.5	10.4	4.4	12.8	1.1	255.4
75歳以上	264	63.3	28.4	26.9	34.5	24.2	17.4	18.6	12.1	4.5	14.8	1.9	246.6
【健康状態】													
影響がある	595	77.5	34.6	41.0	26.1	25.7	22.9	9.4	6.2	5.4	10.8	0.7	260.2
影響はない	3,319	71.5	45.0	31.7	30.6	27.4	18.9	11.8	7.9	7.1	5.4	0.6	257.8

(4) 高齢期の生活に対する不安 (Q4)

「自分の高齢期の生活に不安を感じているか」についてみると、「大いに感じている」が30.0%、「多少感じている」が50.6%となっており、両方を合わせた『感じている』は80.6%と8割を占めている。

一方、「あまり感じていない」16.8%と「全く感じていない」2.4%を合わせた『感じていない』の割合は19.2%となっている。

図4 高齢期の生活に対する不安 (Q4)



年齢別にみると、『感じている』は50代(87.1%)、40代(85.3%)で割合が高く、75歳以上(69.7%)で低くなっている。

健康状態(日常生活への影響)別にみると、『感じている』は、「(日常生活に)影響がある」で88.2%と割合が高くなっている。

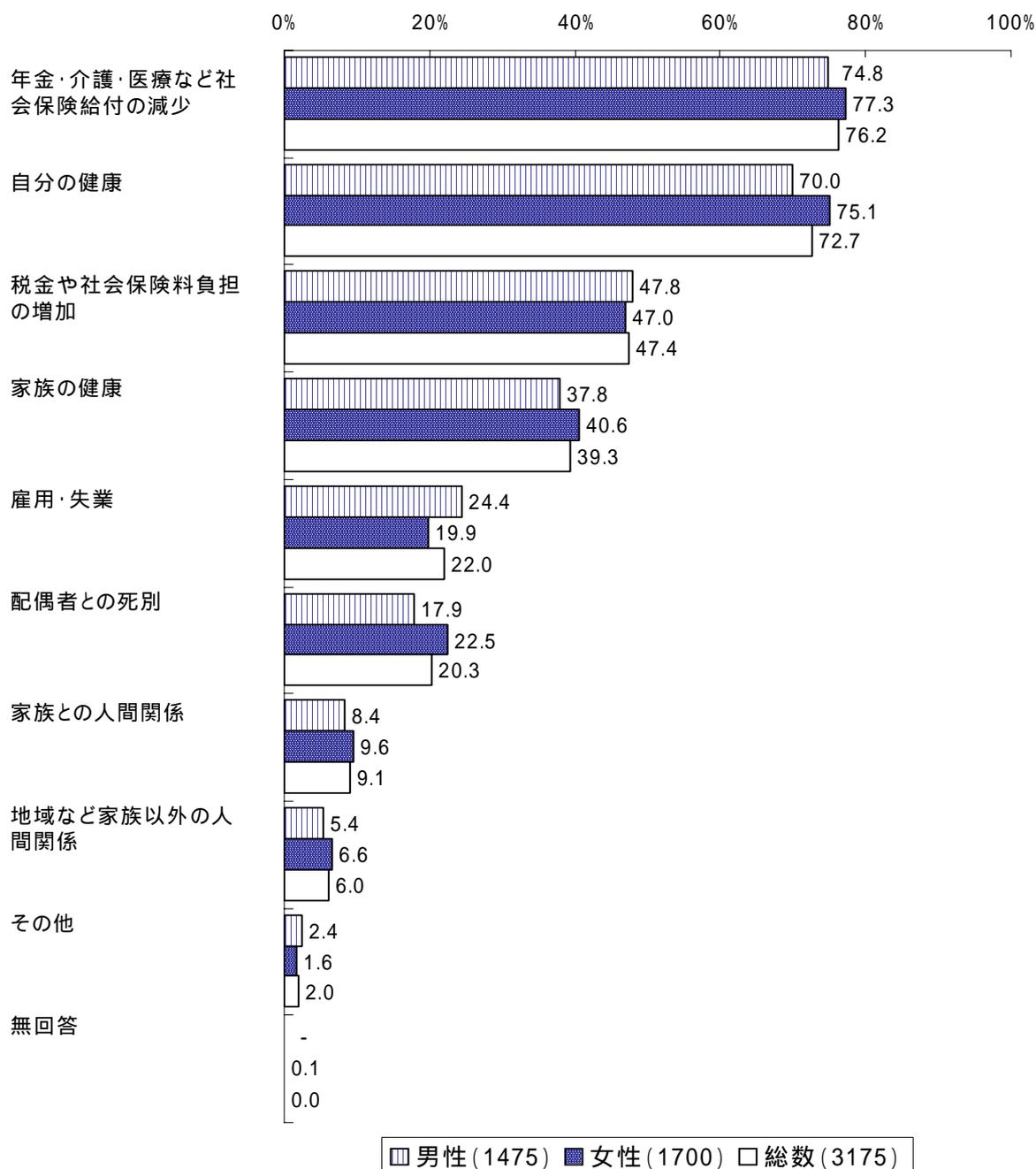
表4 高齢期の生活に対する不安(Q4)

	総数	感じている			感じていない			無回答
		(計)	大いに感じている	多少感じている	(計)	あまり感じていない	全く感じていない	
【総数】	3,941	80.6	30.0	50.6	19.2	16.8	2.4	0.2
【性別】								
男性	1,862	79.2	28.8	50.4	20.5	17.6	2.8	0.3
女性	2,079	81.8	31.0	50.7	18.1	16.0	2.1	0.1
【年齢】								
20代	528	74.2	26.7	47.5	25.6	22.0	3.6	0.2
30代	663	83.3	32.1	51.1	16.6	13.9	2.7	0.2
40代	633	85.3	32.9	52.4	14.5	13.4	1.1	0.2
50代	668	87.1	36.8	50.3	12.9	12.3	0.6	-
60～64歳	519	79.6	27.0	52.6	20.2	17.5	2.7	0.2
65～74歳	666	76.9	25.1	51.8	22.4	20.1	2.3	0.8
75歳以上	264	69.7	25.0	44.7	30.3	23.1	7.2	-
【健康状態】								
影響がある	595	88.2	41.8	46.4	11.6	10.6	1.0	0.2
影響はない	3,319	79.2	27.8	51.4	20.6	17.9	2.7	0.2

SQ 不安に感じること (SQ4 - 1)

Q4で「大いに感じている」「多少感じている」と答えた人に、「どのようなことに関する不安か」尋ねたところ、「年金・介護・医療など社会保険給付の減少」が76.2%、「自分の健康」が72.7%と7割以上を占め、以下「税金や社会保険料負担の増加」47.4%、「家族の健康」39.3%、「雇用・失業」22.0%、「配偶者との死別」20.3%等の順となっている。

図4 - 1 不安に感じること (SQ4 - 1) (複数回答)



性別にみると、「自分の健康」(男性 70.0%、女性 75.1%)、「配偶者との死別」(男性 17.9%、女性 22.5%)は女性の割合が、「雇用・失業」(男性 24.4%、女性 19.9%)は男性の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「年金・介護・医療など社会保険給付の減少」は、20代(81.9%)、30代(85.9%)、40代(81.7%)で8割を超え割合が高く、「自分の健康」は、年齢が高くなるほど割合が高くなっている。

健康状態(日常生活への影響)別にみると、「自分の健康」は、「(日常生活に)影響がある」で82.9%と割合が高くなっている。

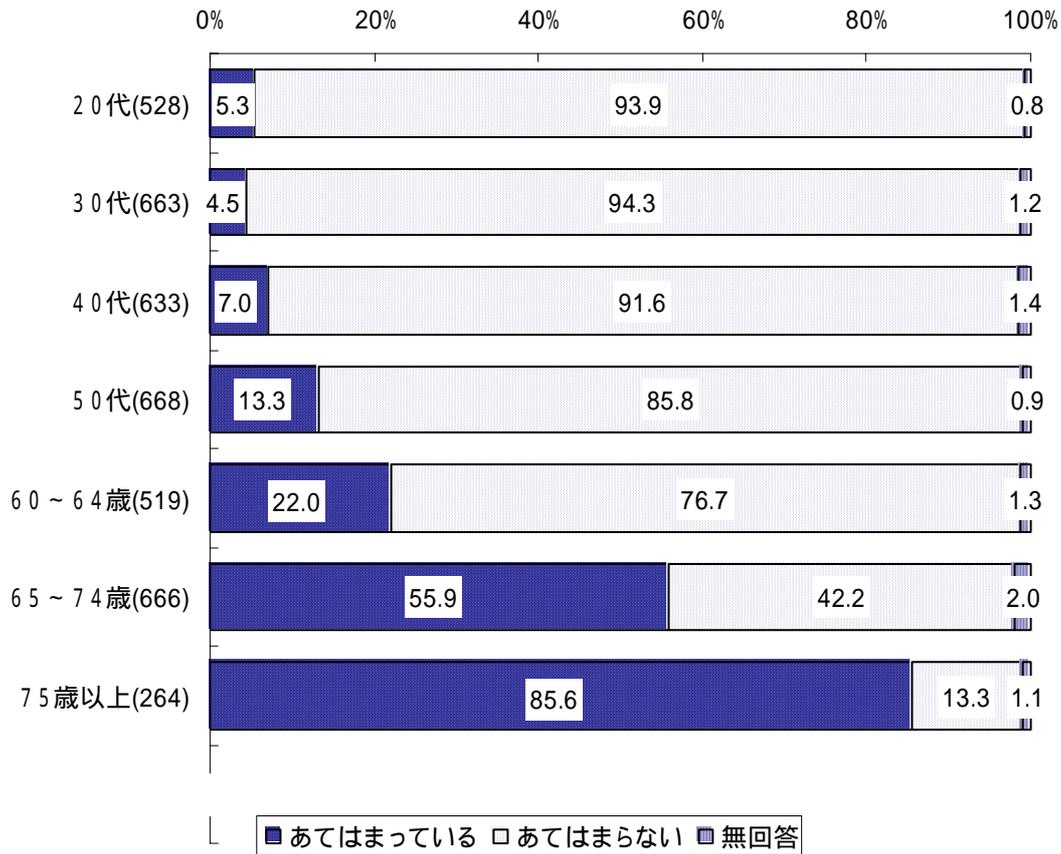
表4-1 不安に感じること(SQ4-1)(複数回答)

	該当者数	年金・介護・医療など社会保険給付の減少	自分の健康	税金や社会保険料負担の増加	家族の健康	雇用・失業	配偶者との死別	家族との人間関係	地域など家族以外の人間関係	その他	無回答	計(M.T)
【総数】	3,175	76.2	72.7	47.4	39.3	22.0	20.3	9.1	6.0	2.0	0.0	295.0
【性別】												
男性	1,475	74.8	70.0	47.8	37.8	24.4	17.9	8.4	5.4	2.4	-	288.9
女性	1,700	77.3	75.1	47.0	40.6	19.9	22.5	9.6	6.6	1.6	0.1	300.3
【年齢】												
20代	392	81.9	57.9	57.4	29.3	39.0	17.1	11.5	6.6	2.8	-	303.6
30代	552	85.9	61.8	61.1	36.4	33.2	17.9	6.2	5.3	1.4	-	309.1
40代	540	81.7	72.4	50.0	40.0	31.1	16.9	8.9	6.9	2.2	-	310.0
50代	582	79.6	77.0	48.5	42.4	22.3	22.0	7.6	4.6	2.1	-	306.0
60～64歳	413	71.2	78.2	39.0	37.0	9.4	24.5	9.4	6.1	2.2	-	277.0
65～74歳	512	64.3	81.4	34.4	46.7	4.1	24.6	10.4	7.0	1.6	0.2	274.6
75歳以上	184	52.2	87.5	28.8	41.8	2.2	18.5	13.6	6.5	2.2	-	253.3
【健康状態】												
影響がある	525	67.8	82.9	43.2	39.8	16.0	22.1	11.8	7.2	2.1	0.2	293.1
影響はない	2,630	77.9	70.8	48.2	39.2	23.2	19.9	8.6	5.8	2.0	-	295.6

(5) 高齢者としての認識の有無 (Q 5)

「高齢者としての認識の有無」についてみると、50代で13.3%、60～64歳で22.0%、65～74歳で55.9%、75歳以上で85.6%が「あてはまっている(自分を高齢者だと思う)」としているが、65～74歳で42.2%、75歳以上でも13.3%が「あてはまらない(自分を高齢者ではないと思う)」としている。

図5 高齢者としての認識の有無 (Q 5)



健康状態 (日常生活への影響) 別にみると、「あてはまっている」は、「(日常生活に)影響がある」で46.6%と割合が高くなっている。

表5 高齢者としての認識の有無(Q5)

	総数	あてはまっている	あてはまらない	無回答
総数	3,941	22.9	75.8	1.3
【性別】				
男性	1,862	24.2	74.5	1.2
女性	2,079	21.7	77.0	1.3
【年齢】				
20代	528	5.3	93.9	0.8
30代	663	4.5	94.3	1.2
40代	633	7.0	91.6	1.4
50代	668	13.3	85.8	0.9
60～64歳	519	22.0	76.7	1.3
65～74歳	666	55.9	42.2	2.0
75歳以上	264	85.6	13.3	1.1
【健康状態】				
影響がある	595	46.6	52.1	1.3
影響はない	3,319	18.7	80.2	1.1